

避難者アンケート調査 集計結果（概要）

平成24年11月

山形県広域支援対策本部避難者支援班

目 次

I 調査の概要

- 1 調査の目的 - 1 -
- 2 調査項目 - 1 -
- 3 調査設計 - 1 -

II 調査結果

1 世帯の状況について

- (1) 避難世帯の家族構成について - 2 -
- (2) 避難の理由、住民票の異動 - 2 -
- (3) 避難生活の生活費 - 3 -
- (4) 避難元の家族と会う頻度 - 3 -

2 困っている事、不安なこと、避難者支援への要望について

- (1) 困っている事、不安なことについて - 4 -
- (2) 山形県内での支援について - 5 -
- (3) 交流イベントについて - 6 -

3 山形での生活について

- (1) 情報の入手について - 7 -
- (2) 住居について - 8 -
- (3) 山形での生活について - 8 -

4 就業・就職について - 9 -

5 心と体の健康について - 11 -

6 教育や子育てについて - 12 -

7 自由記載欄 - 13 -

I 調査の概要

1 調査の目的

東日本大震災から1年8ヶ月が経過しましたが、現在も1万人を超える方々が本県での避難生活を余儀なくされています。

避難生活が長期化する中で、避難者の方々がどのようなニーズをもっているか、どのような支援を望んでいるか等を調査し、今後の避難者支援策に資することを目的として実施しました。

2 調査項目

- (1) 世帯の状況について
- (2) 困っていること、不安なこと、避難者支援への要望について
- (3) 山形での生活について
- (4) 就業・就職について
- (5) 心と体の健康について
- (6) 教育や子育てについて
- (7) 自由記載欄

3 調査設計

- (1) 調査地域 : 山形県全域
- (2) 調査対象 : 東日本大震災により山形県内に避難されている
3, 855世帯
- (3) 調査方法 : 郵送によるアンケート調査
- (4) 調査期間 : 平成24年10月中旬～下旬
- (5) 集計数 : 1, 275件 (回収率: 33.1%)
※参考 平成23年度は4, 651世帯に送付し、回収は1, 649件
(回収率35.5%)。

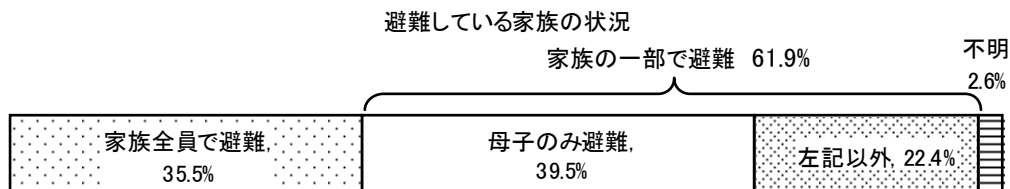
※ 注意点

- (1) 小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- (2) 一つの質問で回答が複数ある場合、回答率が100%を超える場合があります。

II 調査結果

1 世帯の状況について

(1) 避難世帯の家族構成について

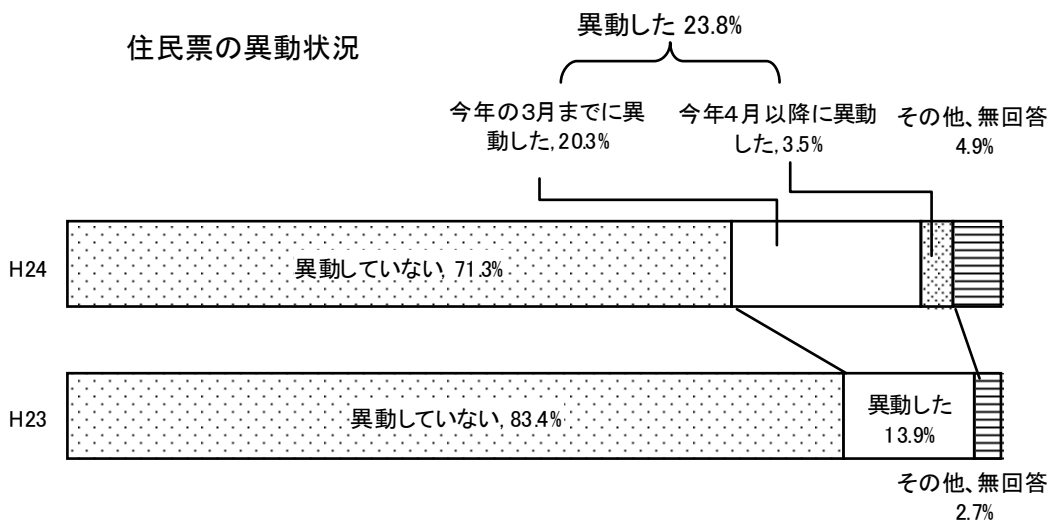
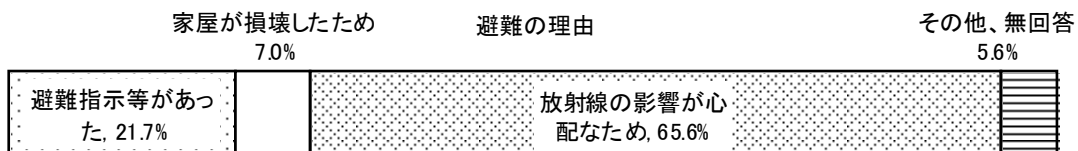


家族全員で避難している割合が36%、家族の一部で避難している世帯は62%で、うち母子（父子）のみ避難の割合は全体の40%でした。子どもがいる世帯は全体の70%でした。

避難世帯の平均人数は約3.0人で、要援護者※のいる家庭の割合は5%でした。

※要援護者：ここでは障がいがある方、介護が必要な方としました。

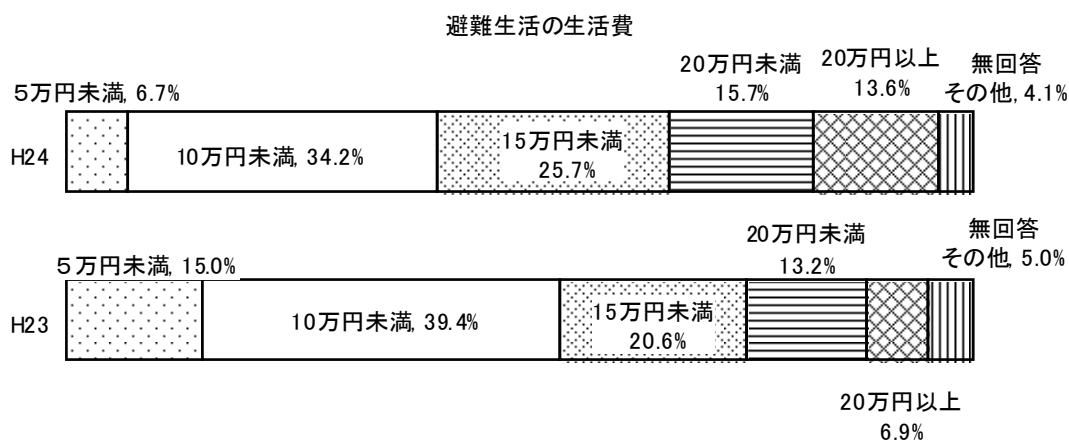
(2) 避難の理由、住民票の異動



避難の理由は、「放射線の影響が心配なため」が66%でした。

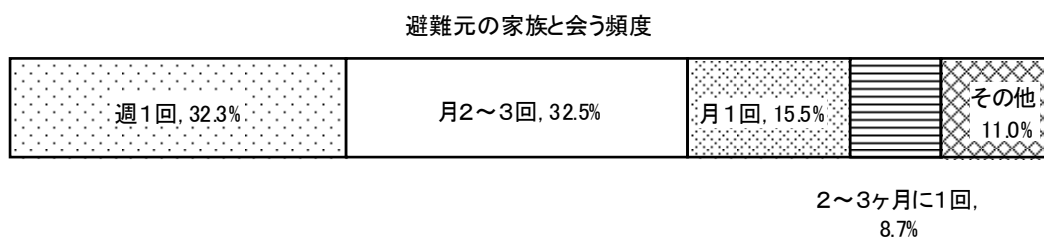
住民票を異動している割合は24%で、昨年度より10ポイント増加しました。

(3) 避難生活の生活費



生活費については、5万円未満、10万円未満の割合が昨年度より減っているものの、それでも合わせて4割以上となっています。

(4) 避難元の家族と会う頻度

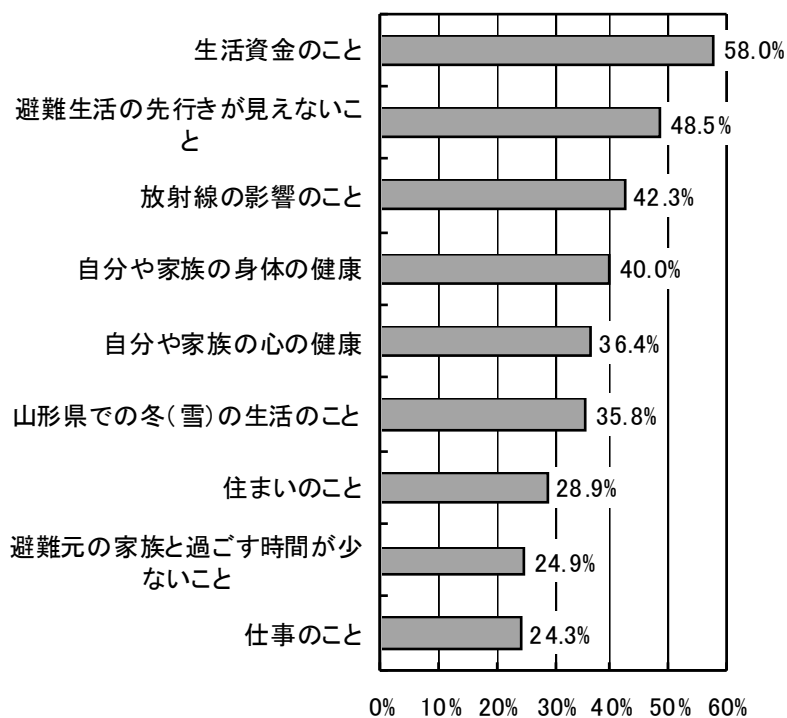


約6割の世帯が月2回以上避難元の家族と会っており、移動に関する費用負担が大きいことがうかがえます。一方、約4分の1の世帯が月に1回以下であり、孤立化が心配されます。

2 困っている事、不安なこと、避難者支援への要望について

(1) 困っている事、不安なことについて

困っていること、不安なこと(複数回答)

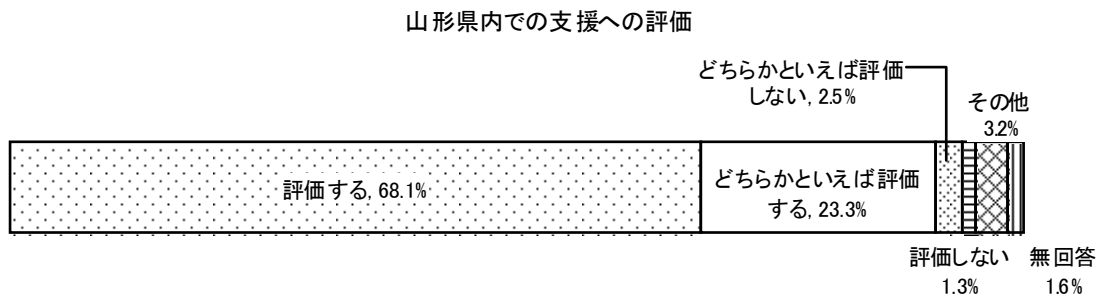


「生活資金のこと」が最も多く、次に「避難生活の先行きが見えないこと」、「放射線の影響のこと」、自分や家族の体と心の健康への不安の順となっています。

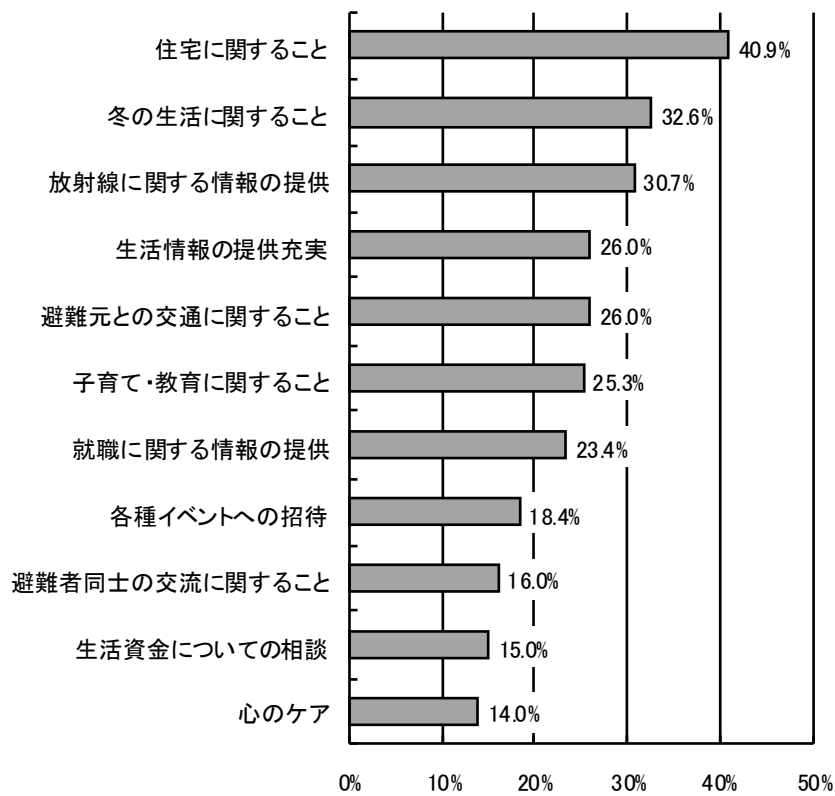
昨年度のアンケートでは「お金のこと」、「冬の生活のこと」、「健康のこと」の順となっており、冬の生活については、一度経験したことで昨年度よりも少なくなっているものの、不安を抱えている方が多い状況です。

「その他」として、医療費の窓口負担や予防接種など医療に関すること、借上げ住宅の期限などの回答が複数ありました。

(2) 山形県内での支援について



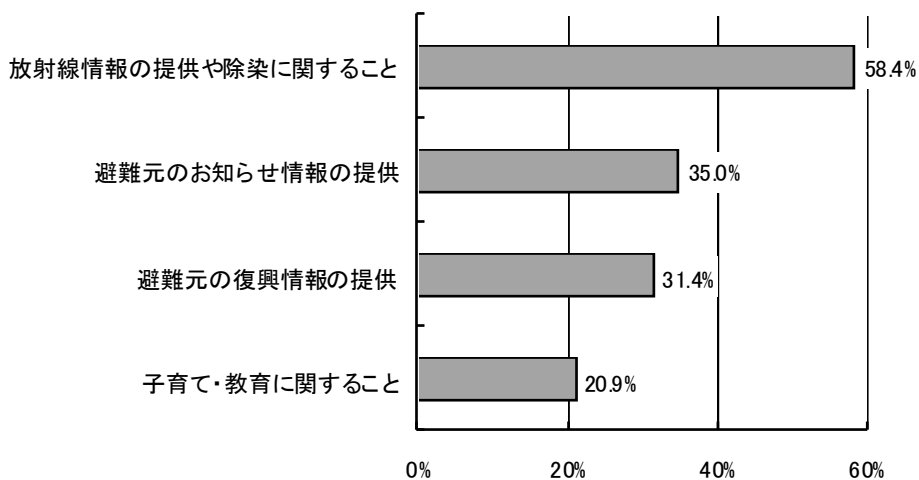
山形県内での避難者への支援として期待するもの(複数回答)



回答者の9割以上が山形県内での支援について「評価する」「どちらかといえば評価する」と回答していました。

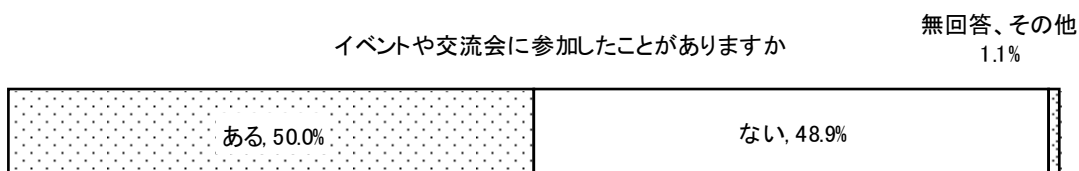
今後期待する支援としては、「住宅に関すること」、「冬の生活に関すること」、「放射線に関する情報提供」、「生活情報の充実」、「避難元との交通に関すること」の順でした。

避難元の行政機関からの支援として期待するもの(複数回答)

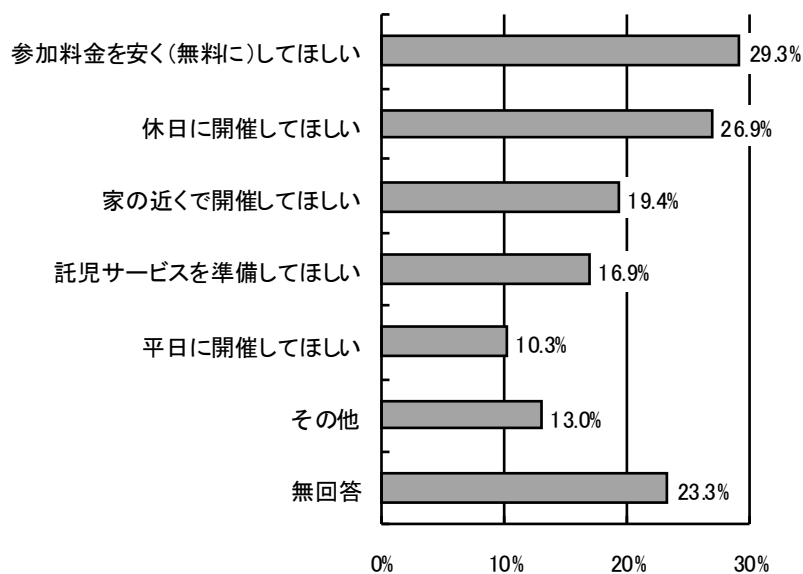


避難元の行政機関からの支援として期待するものについては、「放射線情報の提供や除染に関すること」、「避難元のお知らせ情報の提供」、「避難元の復興情報の提供」の順でした。

(3) 交流イベントについて



イベントに関する要望(複数回答)



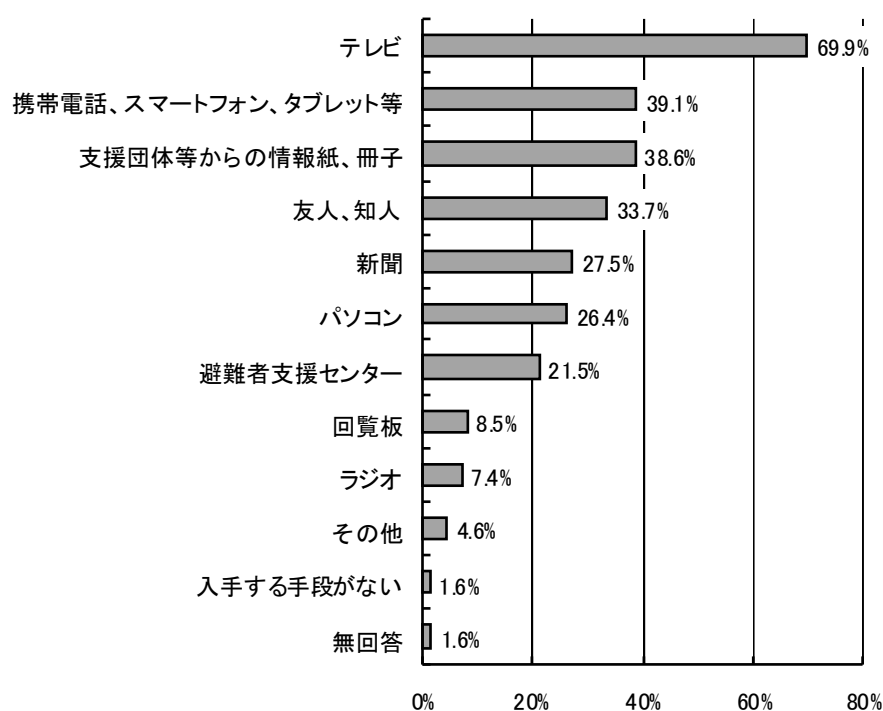
イベントの参加経験は5割でした。イベントに参加しない理由としては、「子どもがいて参加するのが大変」「忙しくて参加する時間がない」「一人では参加しづらい」の順でした。

イベントに対する要望としては、「参加料金を安く（無料に）してほしい」、「休日に開催してほしい」の回答が多く寄せられました。

3 山形での生活について

(1) 情報の入手について

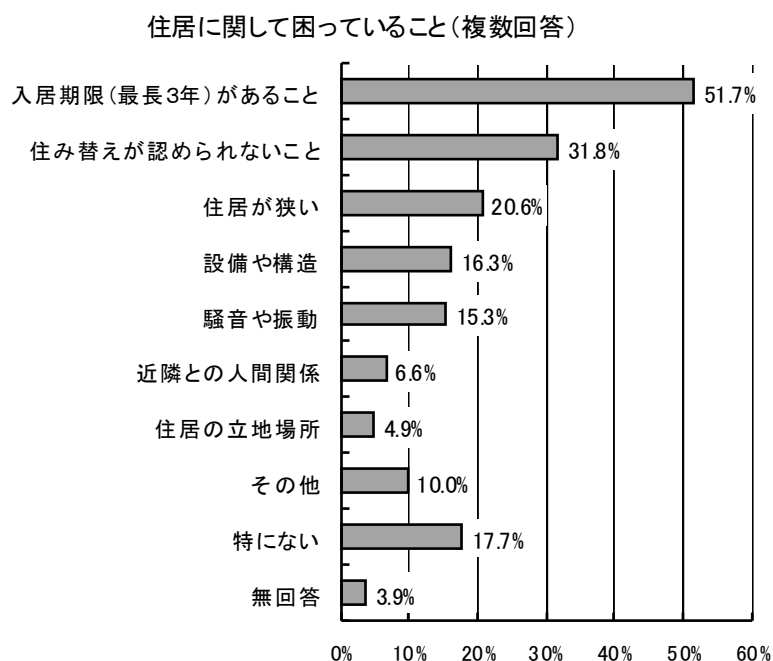
情報を入手する方法(複数回答)



情報の入手する手段で最も多かったのは昨年同様テレビでした。「支援団体等からの情報紙、冊子」が昨年の13%から39%と大きく増加しました。

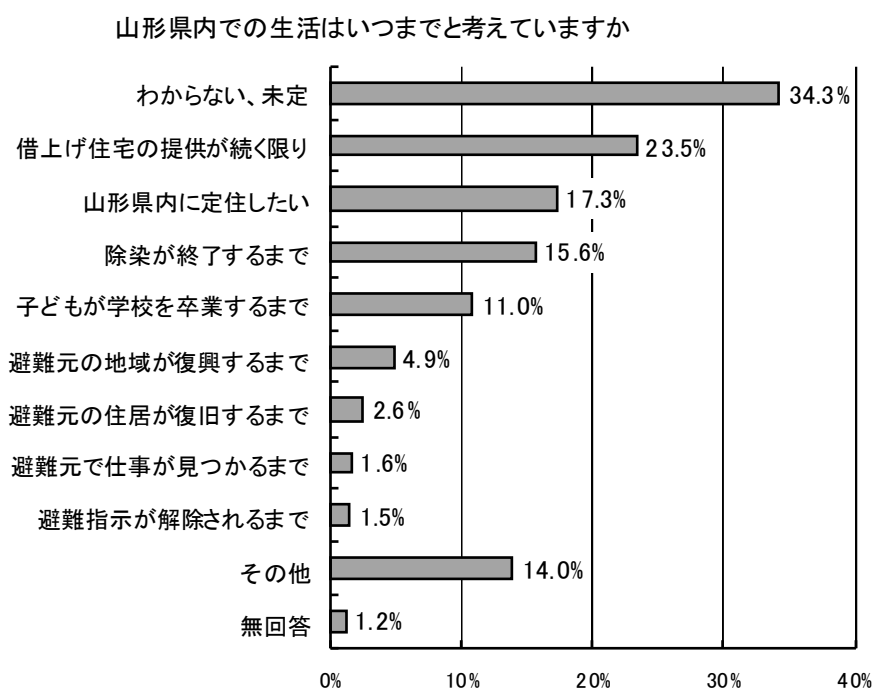
避難元の行政機関からの情報については、「足りている」、「不足している」が半々の状態でした。

(2) 住居について



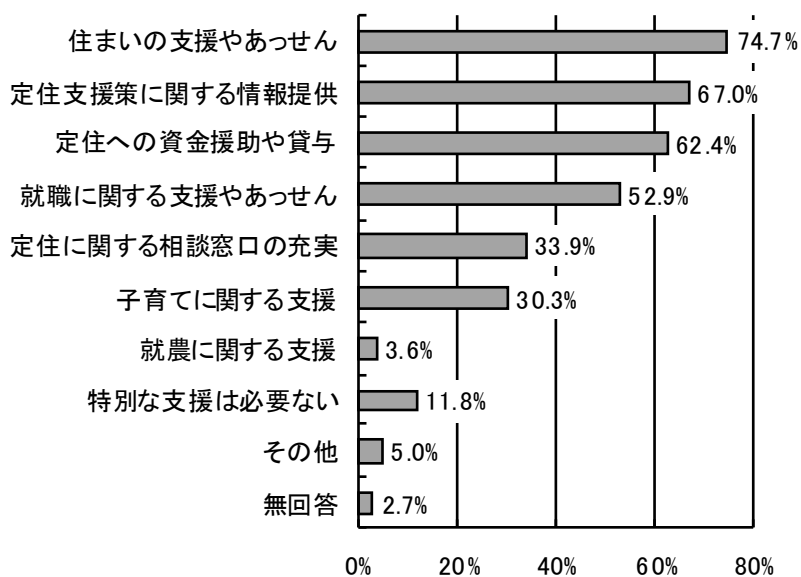
住居に関して困っていることは「入居期限(最長3年)があること」が最も多く、半分を超える世帯で心配しています。次に、住み替えに関する要望が3割を超えていました。住居に関して特に困っていることがない人は2割弱でした。

(3) 山形での生活について



避難生活をいつまで続けるかについては、昨年につき「わからない、未定」が最も多く、具体的に戻る時期を決めていない世帯が多くなっています。次いで「借上げ住宅の提供が続く限り」となっており、借上げ住宅の期限によって避難世帯の状況が大きく変わることがうかがえます。「山形県内に定住したい」が17%であり、昨年より8ポイント増加しています。

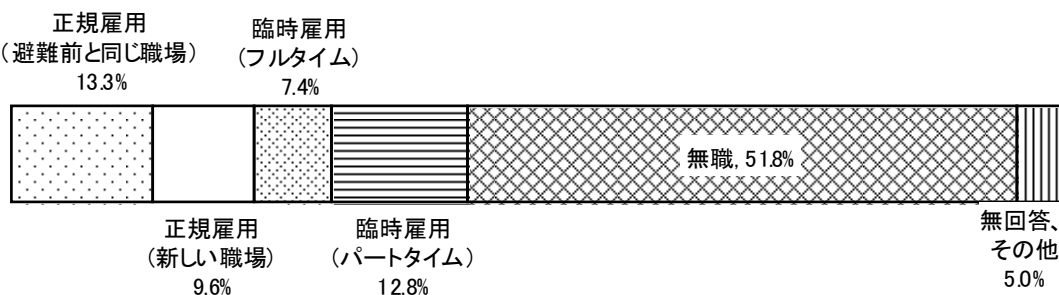
定住に関する支援で希望すること(複数回答)



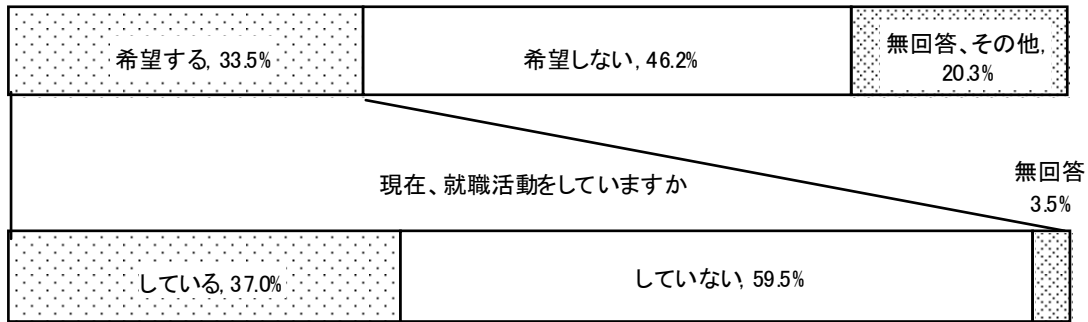
定住に関する支援で希望することは、「住まいの支援やあつせん」、「定住支援に関する情報提供」、「定住への資金援助や貸与」、「就職に関する支援やあつせん」の順でした。この4項目については、定住を希望する世帯の半数以上が希望しており、要望の多い状況がうかがえます。

4 就業・就職について

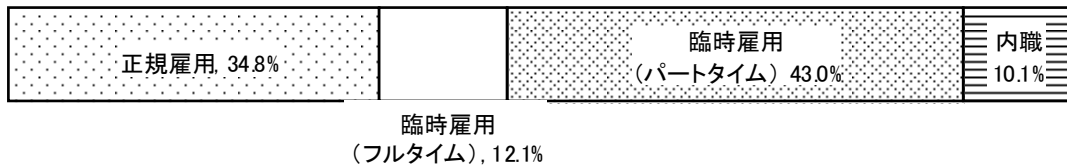
就業形態をお答えください



山形県内での就職を希望していますか



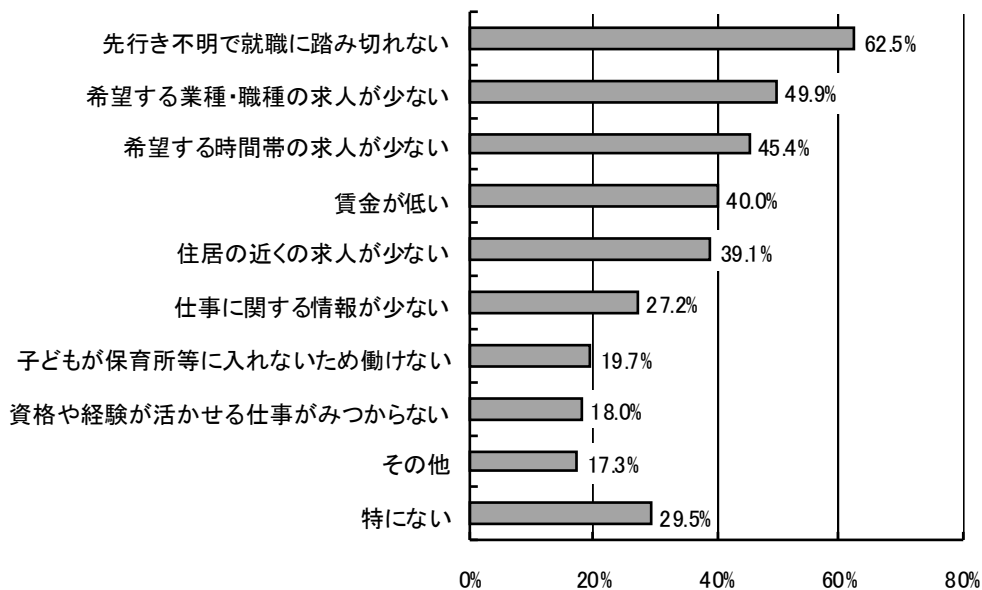
どのような勤務形態を希望しますか



世帯の代表者に就業状況をお聞きしたところ、約4割が現在就業していました。また、山形県内で新たに職を得たのは約3割でした。

現在、転職を含み就職を希望する方は34%であり、昨年度の40%より7ポイント減少しています。希望する勤務形態については、臨時雇用を希望する方が半分を超えており、最も多くなっています。正規雇用の希望は約35%、内職は約10%でした。

就職で困っていること(複数回答)

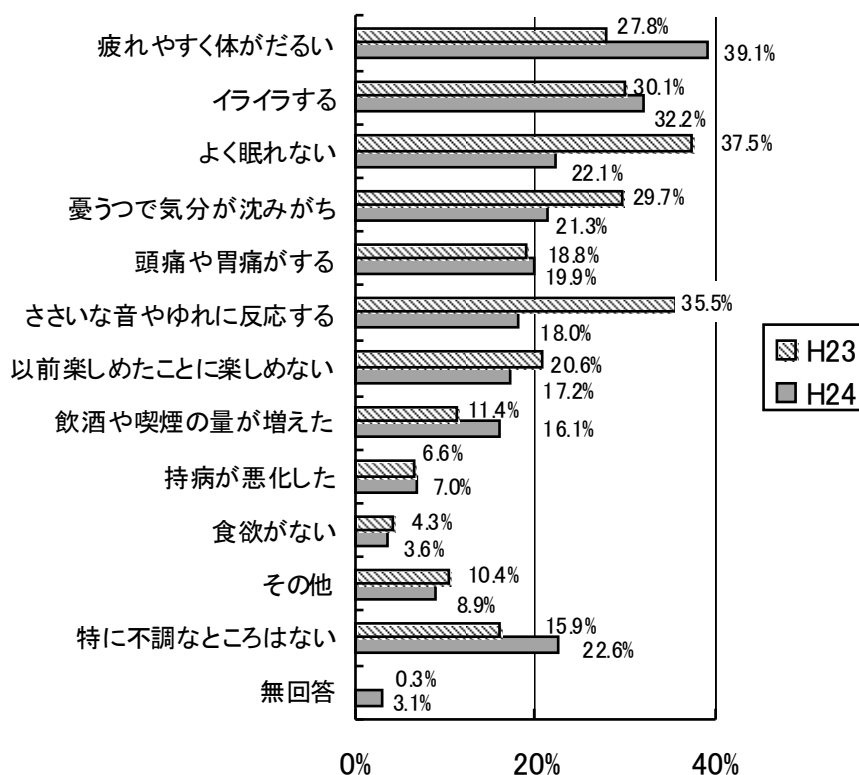


昨年最も多かった、「子どもが保育所等に入れなかったため働けない」については、昨年度より少なくなっています。一方、「先行き不明で就職に踏み切れない」が最も多く、昨年よりも増加しています。

このほかは、勤務時間帯や業種 mismatches が多くあげられました。

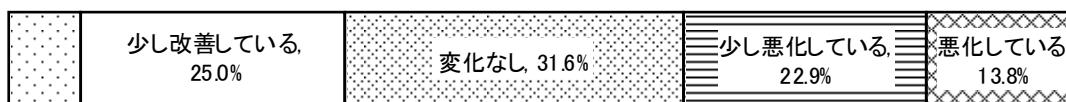
5 心と体の健康について

心と体の健康について(複数回答)



改善している
6.7%

症状は避難当初と比べてどうですか

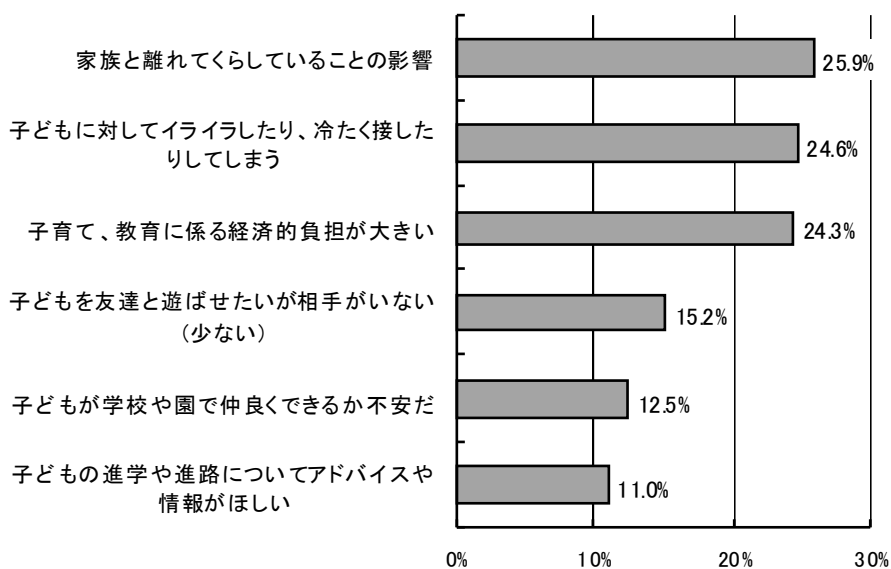


特に不調なところはないという方が、昨年より7ポイント増加しているものの23%にとどまっており、それ以外の方は何らかの心身のストレスを抱えています。

避難当初と比較した症状の変化については、改善している、変わらない、悪化しているがそれぞれ三分の一程度でした。

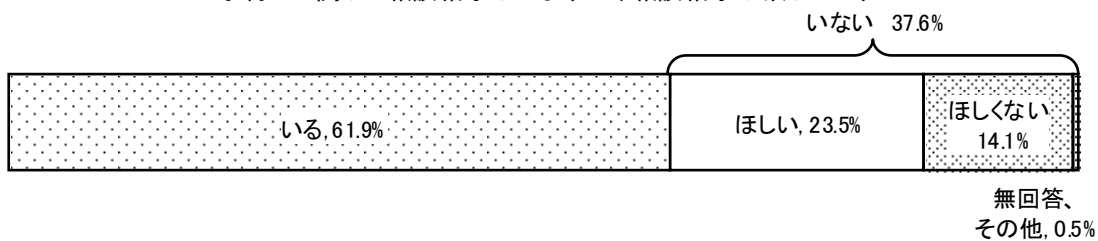
6 教育や子育てについて

教育や子育てで困っていること(複数回答)

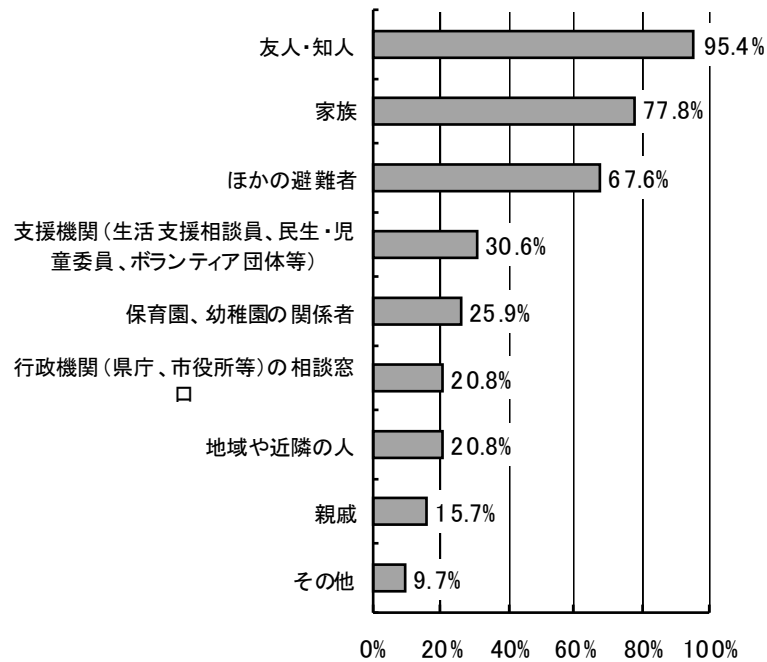


「家族が離れて暮らしていることの影響」と「子どもに対してイライラしたり、冷たく接したりしてしまう」、「子育て、教育に係る経済的負担が大きい」の順になっています。

子育てに関して相談相手はいますか、相談相手は欲しいですか



子育てに関して誰に相談したいですか(複数回答)



相談相手がおらず、相談相手が欲しいという方が 24%でした。希望する相談相手は、友人・知人が 95%、他の避難者が 78%であり、友人を作れるような環境、他の避難者と交流できるような環境整備が大切であることがうかがえます。

また、生活支援相談員等の支援機関への相談も 31%の方が希望しています。

7 自由記載欄

支援への感謝、経済的な負担、将来への不安、心の健康、借上げ住宅の延長、住替え、情報の提供、交流、冬の生活、子育て等の記載が多い状況でした。